

「この人 61」

青山 桂一 78歳 愛知県

編集部 俳句を始められたのは？

青 山 学生時から詩や小説を書いては、学友会誌や結社誌に投稿していました。警察官となってから一時、離れていましたが、家庭をもった三十歳の時に、また詩を書き始めました。四十五歳のとき組織の機関誌の編集長になって、欧米映画史、日本映画史、日本の城、警察風土史などのテーマに取り組みました。詩づくりは、私には相当なエネルギーが要りますので、退職後、俳句・短歌の勉強を始めました。結社にも一時、所属して「極私的俳句論」という論文を書きました。

編集部 青山さんの俳句論とは？

青 山 その時の論文の内容の一部ですが、俳句は大衆化し過ぎているということを指摘しました。季語の乱用、軟弱表現、日記化、追従句、亡父・愛孫句、緩慢表現、難解表現などについて述べました。

編集部 滑稽俳句については、どのように思われますか。

青 山 滑稽俳句の特徴は、社会詠、擬人化の面白さでしょうか。声援を送っていますよ。

<代表句>

稲架あるを嬉しく思ふ時代かな
虹橋を架けては壊す青春期
渡り来し鴨も狼狽川工事
冬耕やできる田畑のまだありて
整列は骸姿の冬並木